

半田市 報道機関提供資料

蔵出し情報

問い合わせ

市民経済部
環境課長 大嶽浩幸
0569-84-0627

令和2年4月13日提供 (事前情報・事後情報)

名称	「ゼロカーボンシティ」の認定を受けました。
趣旨 (目的)	<p>近年、地球温暖化が原因とされる気候変動による影響が世界中で観測されており、将来的に様々なリスクが懸念されています。</p> <p>2015年に合意されたパリ協定では、「平均気温上昇の幅を2℃未満とする」目標が国際的に共有されました。また、IPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）特別報告書では、「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年頃までに二酸化炭素（CO₂）の実質排出量をゼロにする必要がある」と示されています。この目標達成に向け、地方公共団体、民間企業、NPOなど国家以外の主体による脱炭素社会に向けた取組が急速に広がっています。</p> <p>こうした中、小泉環境大臣から地方公共団体での取組の重要性が表明され、環境省が全国の地方公共団体に呼びかけを行っています。</p>
内容	<p>半田市においても、これに賛同し、『2050年までにCO₂排出量実質ゼロ』に取り組むことを令和2年2月20日に表明しました。</p> <p>令和2年3月定例会市議会（2月20日開催）市長施政方針 （前略）本市においても、（中略）まずは令和2年度に策定します「第2次半田市環境基本計画」において、（中略）2050年を目途にCO₂排出量を実質ゼロにする目標を掲げ、地球温暖化対策に取り組んでまいります。（後略）</p> <p>この表明について環境省に報告をしたことにより、この度、本市が国内88番目のゼロカーボンシティとして、環境大臣から認定されました。 (別紙参照)</p> <p>※表明した地方公共団体の一覧等は、 https://www.env.go.jp/policy/zerocarbon.html をご参照ください。</p>
担当者 情熱メッセージ	<p>「2050年までにCO₂排出量実質ゼロ」の実現に向けては、バイオマスなどの再生可能エネルギーの利用拡大が大きな鍵を握っています。現在、市内には、CO₂の増減に影響しない「カーボンニュートラル（※1）」と言われる『木質バイオマス』発電所が2か所稼働しています。さらに、令和3年秋には、食品残さや生ごみ、畜産糞尿などを原料として発電を行う『メタン発酵バイオガス』発電所が稼働予定です。</p> <p>こうした環境に配慮した企業（※2）が、複数立地する本市の長所を市民や市内事業者の皆様にご理解いただきたいと思っております。</p>
別紙	有 ・ 無

半田市企画課広報情報担当
0569-84-0603





愛知県半田市長 榊原 純夫 殿

貴市におかれましては、この度、自治体として2050年の温室効果ガスの実質排出量ゼロ（ゼロカーボンシティ）を目指されることを表明されました。今回の貴市の表明をもちまして、ゼロカーボンシティは国内で88自治体となりました。我が国としてのパリ協定の目標達成に向け、大変心強く感じております。

先日、国内各所に甚大な被害を及ぼした巨大台風の事例は記憶に新しいところですが、温室効果ガスの増加に伴い、今後、このような水害等の更なる頻発化・激甚化などが予測されております。こうした事態は、もはや「気候変動」ではなく、私たちの生存基盤を揺るがす「気候危機」と表現するべき事態と考えております。

2015年に合意されたパリ協定では「平均気温上昇の幅を2度未満とする」目標が国際的に広く共有されました。この目標の達成に向けては、各国政府関係者の努力はもとより、地方自治体を始めとしたあらゆる主体、ノン・ステート・アクターの取組が極めて重要です。

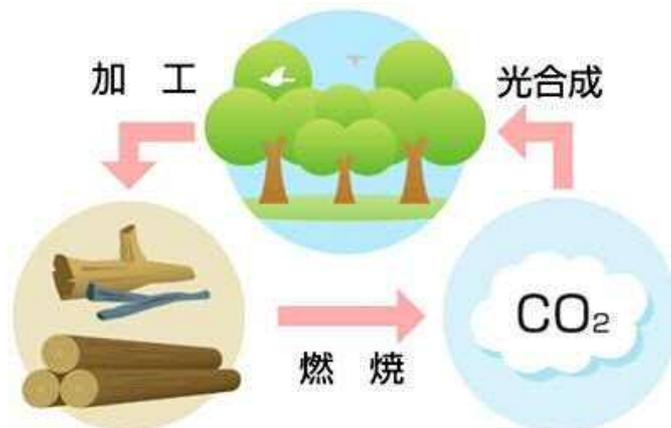
環境大臣として、スペイン・マドリードで開催されたCOP25で発信し、国際的にも高く評価されたところです。こうした日本国内の力強い取組をしっかりと発信するとともに、パリ協定の目標達成に向け、貴市及び他のゼロカーボンシティとともに取組のさらなる具体化に努めてまいります。

環境大臣 小泉進次郎

※1 カーボンニュートラル

ライフサイクルの中で、二酸化炭素の排出と吸収がプラスマイナスゼロのことを言います。

例えば、植物の成長過程における光合成による二酸化炭素の吸収量と、植物の焼却による二酸化炭素の排出量が相殺され、実際に大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えないことが考えられます。このように、化石燃料の代わりに、バイオマスエネルギーを利用することはカーボンニュートラルだと考えられ、二酸化炭素の発生と固定を平衡し、地球上の二酸化炭素を一定量に保つことができます。



(中部電力HP引用)

※2 市内のバイオマス発電施設

サミット半田パワー（株）半田バイオマス発電所

◇所在地：半田市川崎町

◇稼働日：平成29年6月20日

◇事業内容：木質リサイクルチップ、PKS（パーム椰子殻）を利用した木質バイオマス発電

◇発電能力：75,000kw（一般家庭約150,000世帯分）

CEPO半田バイオマス発電所

◇所在地：半田市日東町

◇稼働日：令和元年10月1日

◇事業内容：木質リサイクルチップ、PKS（パーム椰子殻）を利用した木質バイオマス発電

◇発電能力：50,000kw（一般家庭約120,000世帯分）

ビオぐるファクトリーHANDA（事業者：㈱ビオクラシックス半田）

◇所在地：半田市松堀町

◇稼働日：令和3年10月（予定）

◇事業内容：食品残さ、生ごみ、畜産糞尿などをメタン発酵させて発生したガスを利用したバイオガス発電及び隣接の植物工場（グループ会社による経営）での排熱・排ガス利用

◇発電能力：800kw（一般家庭約1,500世帯分）

【半田市バイオマス産業都市構想における中心プロジェクト】